

令和2年度 第3回学校運営協議会 報告

- 1 会議 紙面開催
- 2 出席者 学識経験者、市教育関係者、地域住民代表、学識、地域教育関係者、保護者代表
- 3 議題 (1) 学校教育自己診断について
(2) 学校経営計画および本校の教育活動等について
(3) SDGsをテーマとして取り組みについて
(4) その他

4 協議内容(説明および意見提言)

(1) 学校教育自己診断について

<説明>

【生徒・保護者の両方】

5) 6) 学校の特色ある取り組みや地域連携、国際理解への取り組み

【保護者】

1 2) 進路情報提供、2 2) 学校行事への参加

⇒数値が低下。

*コロナ禍の影響もあると考えられ、様々な活動が可能となれば回復するものもある
学校に来校いただく時間が減っており、進路情報の提供などについてもホームページ
やメールマガジンでの情報発信を増やすなど、工夫の必要がある。

【生徒】

4 2) 英語の少人数展開において発言回数が増えている

⇒大きく数値が低下。

*少人数展開の効果が十分得られず、授業の工夫が必要。

【教職員】

8) ICT機器を活用した授業、19) カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導、
30) 清掃指導の実施、44) 施設設備の点検・管理状況、45) 各教科の備品・教材の活用
⇒20%以上数値が向上した項目もある

29) 生徒に家庭学習をさせるための工夫

47) 研修・研究の成果を他の教職員に伝える機会

⇒10%以上評価の下がった項目もある。

*少なからずコロナの影響もあるが、新学習指導要領を見据え、観点別評価やカリキュラ
ムマネジメントなど、学校全体として教育内容の検討が必要な時期に来ている。

生徒に課している宿題なども他教科と話し合いながら、改善できるようにすすめる。

*36)～40)の学校運営に関わる項目の数値が低いことは課題

多忙ゆえ、コミュニケーションがしっかりとれず、会議時間も十分に議論を尽くせてい
ないことも一因と考えられる。

★改善策として、

- ① 次年度は分掌組織を5分掌から4分掌へ改編し、より機能的な組織をめざす。
- ② 分掌等の会議を時間割の中に設定し、放課後に時間が生まれるようにする。

<意見・感想など>

○生徒の評価における授業内の発言回数、地域と連携した取り組み、国際理解を深める
取り組みについては大幅な評定値の低下がみられる。ただ、コロナ禍においては、
平常運転であった前年度と単純に比較できない部分もある。判断を保留しつつ結果の
読み取りや解釈は慎重に行っていく方が良いのではないかと思う。

- 組織改編を行う、会議を時間割の中に設定するなどの試みは、教員の多忙な状態を改善するための必要かつ有効な取り組み。北千里高校がこれからどんどんと新たな試みをしていくなかで、限られた教員のリソースを有効活用するためには、重みづけや優先順位を設ける、不必要なものについては縮小あるいは思い切って廃止する、旧いものと新たなものを置き換える等の改革がもとめられる。期待しております。
- 生徒、保護者、教員ともに評価が下がっていた学校ホームページの充実をお願いします。

(2) 学校経営計画および本校の教育活動等について

<説明>

【令和2年度学校評価（案）について】

裏面の自己評価に今年度の評価を入れたので、ご確認いただきたい。

【令和3年度学校経営計画（案）について】

コロナ禍が継続することを見込んで内容を改めた。現在本校で取り組んでいる授業改善やSDGsをテーマとした探究などの取組みの継続、進路指導の充実を明化。安全・安心な学校づくりとして新型コロナの対策強化、毎年対策が難しくなっている食物アレルギーについての組織的な取り組みについて記載。

<意見・感想など>

- 中期的目標に「授業の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む」とあり、その中でも「授業の充実」をはじめに掲げられていることに学校の姿勢が感じられる。その方策として、教員間の授業研究も取り上げていることに期待する。
- SDGsについて、しっかりと記載されている点も大いに評価をしたい。SDGsは、どのように自分事として考えることができるのかが重要。まずは、自分たちの身近な問題意識から初めていただければ。
SDGsの17の目標の背景にあるもっと大きな基本的な理念は「誰一人取り残さない」であり、探究活動を進めるにあたって、そのプロセスにおいてもこのことを見失わないようにしてほしい。大いに期待が持てそうである。
- これまで協議会の場での発言や指摘が、「学校経営計画」にしっかり反映されている。北千里高校の学校運営協議会がうまく運営されているのではないかと感じる。
- 生徒が学校でその大半の時間を過ごすことになるのが授業の時間です。その授業時間がどう変わるのか、このことがまずは重要と考える。
- 学校教育自己診断の結果を反映したことにより、前年よりも具体的な目標が掲げられ、分かりやすくなった。社会や大学への橋渡しとして、やはり進路の部分は重要と感じている保護者が多いと思うので、保護者の評価が下がっていた、進路についての情報提供を充実するのは、ありがたいのではないかとと思う。
- 危機管理については、新型コロナウイルスの対策についての項目が個別に掲げられ、感染防止対策が見える化され、安心感が増したと思う。

(3) SDGsをテーマとして取り組みについて

総合的な探究の時間で課題設定をし、解決策について提言するという活動を行った。最後は1, 2年生合同でポスターセッションを実施し、興味あるテーマについて自由に研究発表を聞きに行くというスタイルとした。コロナ禍にあり、発表用資料の作成作業や発表の形態にも制約があったが、生徒たちは限られた条件のなか準備をすすめた。次年度もさらに探究が深まり、他教科においても探究心を持って学習していく姿勢を育みたい。

(4) その他（全体を通して）

<意見・感想など>

○現在、義務教育の現場では新学習指導要領のもと、小学校でも、また、新年度から本格実施される中学校でも大きな変化が訪れている。「GIGA スクール」の流れが、この動きを加速させることは明らか。令和4年度から全府立学校生徒へ1人1台の端末配備を目指すということで、義務教育の流れはそのまま高校へと受け継がれていくことが伺える。

○ある中学校では、プロジェクターやパソコンを使った授業、またグループでの話し合いなども積極的に行われており、また先生方が生徒になっての授業研究や、密にならないように別室での映像の視聴、リモートでの講師の指導講評など、工夫もされてすすめている。こうした取り組みで、各教科の授業の大きな変化を見ることができた。

新学習指導要領の目指すもの「主体的・対話的・深い学び」といっても、保護者の方などから中身は見えにくい。しかし、授業の形態であれば、例えば「GIGA スクール」と組み合わせて、タブレットやノートパソコン、プロジェクター、電子黒板機能を使った授業かどうかは、生徒も、また生徒を通して保護者もそのことを知ることができる。

SNS で情報がやり取りされる時代、「GIGA スクール」があちこちで話題なり、一人一台の端末が配布される中、そういった授業の変化や違い、今までの授業との差は、より見えやすくなっており、授業者や各教科によって、学年によって、また学校という単位で、どうしても比べられてしまうのではないかと。使わない差、使ってはいるけれど、その中身の差、うっかりしているとその差が、短期間に大きく広がってしまうのではないかと、ということが気にかかっている。

では、配布された端末や電子機器が使われていけばいいのか。端末も含めて ICT 機器は道具であり、それを生徒一人ひとりが持ち、生徒の学びがどう変わるかが重要。ICT 機器をただ使っているだけではなく、それぞれの考えやアイデアを共有化したり、大量の資料やデータを効率よくやり取りしたり、また、世界中の人とつながることができるという環境の中、授業は大きく変わっていく可能性がある。

この先高校に入学してくる生徒は、既に義務教育課程の段階で、一人一台端末という ICT 環境の中で学びの経験をしており、先進的な学びを経験している生徒と、そうではない生徒もいる。経験の差もある中で、どのように授業改革を進めていくのか、大きな課題だと考える。

北千里高校でも「教員間の授業研究」を進めようとしている。授業の本質的なところが押さえられた授業改革の取り組みを、積極的に組織的にすすめていただきたい。

○教科以外の人格形成に「地域連携」は非常に重要だと思う。しかし一般的には、重要であることは認識されていても、実際の取り組みノウハウが学校側には少なく、また、積極的に関与する時間や労力が乏しい様に思われる。

また「知識主体の教育」は今後 ICT の普及により、例えば医学部でも見直しが始まっている。考える力を育てる観点からも、地域での取り組みを少しずつでも始める事が望まれる。具体的には SGD s に寄与するアイデア等を学生主体で考え、それを実証する様な教育が考えられる。学校の経営にその視点を持つかは、PTA の理解や、地域の協力を得る仕組みについて、今後も協力ができれば幸いである。

○今回のコロナ禍を体験したことでICTを活用した授業、家庭学習、双方型コミュニケーションが以前よりも身近になったのではないか。対面型の授業やコミュニケーション、交流など様々な可能性についてさらに広げていくことが出来る。緊急事態では、速やかに、オンラインに切り替えていけるように準備が整えていくことも望まれる。

○無事に卒業生を送り出されたとのこと。大変嬉しく思いました。まずは、この1年をやり遂げた先生方にも生徒の皆さんにも労いと賞賛を送りたいと思います。

5 議決事項

- ・令和3年度学校経営計画
→承認